

身の男女（約 6,900 人）を調査客体としている。

〔調査事項〕

夫婦票

1. 夫婦の結婚に関する事項
2. 夫婦の社会経済的屬性に関する事項
3. 夫婦の両親の社会経済的屬性に関する事項
4. 夫婦の妊娠、出産歴に関する事項
5. 夫婦の出生に対する意識に関する事項

独身者票

1. 本人の社会経済的屬性に関する事項
2. 両親の社会経済的屬性に関する事項
3. 結婚に関する事項
4. 子供に関する事項
5. 出生抑制知識に関する事項

〔調査方法〕

この調査は、人口問題研究所が厚生省大臣官房統計情報部、都道府県、政令指定都市、および保健所の協力を得て、厚生行政基礎調査と同時に実施したもので、調査は配票自計、密封回収方式で行った。

なお、調査票の回収数は夫婦票が 8,740、独身票が 5,334 であった。

日本統計学会第50回大会

昭和57年度（第50回）の日本統計学会総会および研究報告会は、7月23日（金）から25日（日）までの3日間にわたり、千葉大学（千葉市弥生町）において開催された。

本年も7題に上る共通テーマを始め、盛り沢山のプログラムが組まれたが、そのうちの「国勢調査の実施とその結果の評価」（座長：龍谷大学・上田尚一）には、本研究所の会員も積極的に参加し、活発な討論を行った。このテーマに関する報告は次の4題であった。

- 国勢調査の精度に関する一考察……………山田 茂（九州大）
国勢調査の完全性：評価の方法と結果……………伊藤 達也（人口問題研）
センサス生存率法による府県間純移動率の分析……………岡崎 陽一（人口問題研）
国勢調査結果の評価……………大友 篤（宇都宮大）

このほかにも、とくに「人口統計」に関する部会が設けられたが、他部会の研究報告のなかのものをも含めて、人口に関連のある報告を列举してみると次のようである。

〔人口統計〕

- 都道府県別にみた近年の地域出生力の比較分析……………山口 喜一（人口問題研）
結核死亡率とその性比……………臼井 竹次郎（元公衆衛生院）
緒方 昭（福井医大）
ほか

適用例から見いだされた人口重心および人口中心点の性質に

- ついて……………鈴木 啓祐（流通経済大）
藤原 史之（芙蓉情報）
ほか

- 都道府県別障害者概数調査結果報告……………大橋 隆憲（花園大）
E.C.ローズの人口成長曲線とその適用方法について……………高木 尚文（帝京大）

〔その他〕

中年女性を狙い撃つ死因……………大久保 正 一 (日 本 大)
わが国の近年の疾病構造の動向に関する研究(1)……………根 岸 龍 雄 (東 京 大)
ほ か
日・英両国の死亡現象に関する比較統計学的研究……………飯 淵 康 雄 (琉 球 大)
ほ か

(山口喜一記)

第3回アジア・太平洋人口会議

本1982年9月20日(月)から29日(水)まで、スリランカの首都コロンボにおいて、アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)の主催の下に、アジア・太平洋人口会議(The Asian and Pacific Population Conference)が開催された。

この種の会議としては、1963年12月インドのニューデリーにおいて、当時のECAFE主催によるアジア人口会議が開かれたのが最初で、その9年後の1972年11月、第2回のアジア人口会議がわが国(東京プリンスホテル)において、ECAFE・日本政府共催の下に開催されている。その後10年めに、今回の会議は若干の名称変更はあるものの、これに次ぐ第3回めのアジア地域の人口会議として開かれたものである。

今回の会議には、ESCAP加盟国と準加盟国39か国中の34か国代表が出席したが、その他の関係機関などからの出席者も含めると、合計約300人を超える多数が参加した。

日本の政府代表は津島雄二厚生政務次官、千葉一夫駐スリランカ大使、それと岡崎陽一人口問題研究所長で、その他随員など合計16名がわが国から出席した。本研究所からは岡崎所長のほかに河野稠果人口政策部長が、黒田俊夫日本大学人口研究所顧問らとともに、国連専門家として出席している。

会議のメイン・テーマは、「人口と開発への総合的取組み(An integrated approach to population and related development issues)」であり、全体会議と分科会(10項目のテーマによる)において活発な討議がなされたが、1984年にメキシコにおいて開催予定の世界人口会議に対する、アジアからの呼びかけ“Call for action on population and development”が採択された。

なお、この会議の詳細報告が本誌次号に掲載される予定となっている。

(山口喜一記)